

## コアラの搬入について

○賀曾利 亜紀  
(横浜市立金沢動物園)

埼玉県こども動物自然公園よりメスのコアラ 1 頭の搬入があった。国内のコアラの移動に関しては、コアラ会議の中で決定をし、それに準じて行っている。新たな個体の搬入、検疫、展示までの経過、およびこれまで飼育していた個体では見られなかった行動について紹介する。

今回は近距離での陸送であったため、輸送時間も短く、個体へのダメージは比較的少なかったものと思われる。施設園が変わっても好むユーカリの品種が比較的当園で飼育している個体と似ていたため、採食は落ちることがなく、群れ飼育のときより好きなものを好きなだけ食べられる環境になったため上向きであった。比較的早く新しい環境にも馴れて落ち着いていた様子であった。他のコアラたちも同居ではなかったため、初日に少し気になる程度であとは特に大きな問題も起こらなかった。

これまで中央の展示場には No,46：雌（メス 8 歳 No,57：雌搬入直前死去）がいたが、展示場を飛び越えたことは無かったため、そのまま展示場に手を加えることはせずに No,57：雌を入れたが、小柄で身軽なため簡単に隣の展示場に侵入してしまったものと思われる。おとなしい性格と言われていたが、埼玉ではメス 6 頭の群れで飼育されており、年長個体との力関係で押さえつけられていた個体が、当園で 1 頭飼育となり、活発になり、発情期と重なってオスの展示場へ自ら入ったものと考えられる。

オスとの交尾は通常、発情期のピークに達したと思われた日にメスの展示場にオスを導入し行うため、数分間しかオスとメスは一緒にしていない。オスの射精を確認した後は、ただちにオスをもとの場所に戻している。発情期のピークは、夜間録画されたモニター解析を行い、床おりの回数や時間で判断する。一晩中オスとメスが一緒にの展示場にいる様子を見たのは初めてであったが、オスはできるだけ交尾をしようとメスの様子をうかがってはいるが、コアラの交尾はメスに主導権があるため、近づいてメスが拒否すれば深追いはせずおとなしくしていた。どの日も一晩で 1 回のみ交尾であった。

結局、No,57：雌の受胎はなく、その後発情も収束したため現在は No,52：雄の展示場への侵入は確認されていない。春には発情兆候が見られなかったが、秋の発情期に備えて展示場の整備を進めていく。